

不妊の生物人口学的説明：パイロット調査の設計と実施

A Biodemographic Approach to Reproductive Aging

玉置えみ（立命館大学産業社会学部 助教）

小西祥子（東京大学大学院医学系研究科 助教）

日本の少子化は、20–30 歳代女性における晩婚化および出産の先送りに加え、加齢にともなう再生産機能の老化（不妊）からも影響を受けていると推測される。少子化が大きな社会問題として認知されている一方、その背後に存在する生物学的要因に関する研究はほとんどされていない。本プロジェクトの目的は、働き方やストレス、睡眠、喫煙、などが不妊のリスクに及ぼす影響を疫学的手法から検証することにある。2013 年度はパイロットスタディとして、18–44 歳の女性（3000 人）を対象としたインターネット調査を実施する。本発表では、このパイロットスタディの設計と内容を発表する。

（2013 年度 人間科学研究所萌芽的プロジェクト採択
「生物人口学に基づいた効果的な少子化対策の研究」）